

日本と ASEAN の劇作家による 3 年間の交流プログラム始動！

SPAC×国際交流基金 次世代人材育成プログラム BIOTOPE（ビオトープ）



国際交流基金（JF）は、静岡県舞台芸術センター（SPAC）と共催し、日本と ASEAN 地域の舞台芸術関係者を対象とした人的交流事業「BIOTOPE（ビオトープ）」を実施します。

「BIOTOPE」は主に劇作家を対象に、2026 年から 2028 年までの 3 年間にわたり、以下の 2 つのプログラムを軸に取り組みを進めます。

1. 日本と ASEAN 地域の次世代を担う劇作家のインキュベーション・プログラム
2. ASEAN 地域のアーティストによるパフォーマンス作品の招へい公演および交流プログラム

【事業の背景】

舞台芸術の分野では様々な国際交流事業が行われてきましたが、ダンスなどノンバーバルな表現に比べ、劇作家の交流は“言語”への依存度が高く、翻訳や通訳に係る労力や費用面での負担が、インディペンデントな活動をする劇作家間の国際交流を発展させる上で壁となるケースもありました。

そこで、長年にわたり国際共同制作や多彩な地域交流プログラムの運営経験を有する SPAC が、2026 年度、アジア内での作品制作の経験も豊富な劇作家・石神夏希氏をプログラミングを担うアーティスティック・ディレクターとして迎えたことを機に、JF が推進する日本と ASEAN の包括的な人的交流事業「次世代共創パートナーシップ—文化の WA2.0—」の一環として BIOTOPE を共催することに至りました。これにより、日本と ASEAN 地域の、特に劇作家／シアター・メイカー間の交流促進を図ります。

SPAC は日本平の山の上で、宿泊棟や稽古場施設や作業場を備えた「舞台芸術公園」を運営しています。この空間を、舞台芸術を核としてさまざまな人が集まり、共存し、関係し合い、文化の遺伝子を交わらせる中から結果として新しい実践が生まれてきてしまう、そんな有機的な場所として発展させたいと考えています。

（BIOTOPE ディレクター 石神 夏希氏より）

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：福島、熊倉）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp

BIOTOPE グランドスケジュール

◎2026 年 4 月～5 月：日本・静岡（「SHIZUOKA せかい演劇祭 2026」期間中）

「BIOTOPE－劇作家のためのキャンプ」参加者は、舞台芸術公園に滞在し、観劇に加えワークショップへの参加、静岡でのリサーチ、ディスカッションを通して、参加者それぞれが今後 3 年間で掘り下げるテーマを探っていく。また、演劇祭の観客との交流の場として、公開イベントなども開催します。詳細は「SHIZUOKA せかい演劇祭 2026」の公式 HP をご確認ください。

◎2026 年 7 月～8 月：インドネシア・ジョグジャカルタ

ジョグジャカルタで開催される「アジア劇作家ミーティング（Asian Playwrights Meeting: APM）」期間中に滞在し、観劇・リサーチ・ディスカッションを実施。

◎2027 年 6 月頃：フィリピン・マニラ

マニラの若手劇作家の作品を取り上げる短編作品の演劇祭「ザ・ヴァージン・ラボフェスト（The Virgin Labfest）」期間中に滞在。

◎2028 年 1 月頃：日本・静岡

舞台芸術公園にて、合宿形式でゲスト講師を招き、作品完成に向けてディスカッション・執筆を行う。

◎2028 年 4 月～5 月頃：成果発表（「SHIZUOKA せかい演劇祭 2028」）

「SHIZUOKA せかい演劇祭 2028」にて、全ての参加者の作品をリーディング形式で発表。

BIOTOPE 実施プログラム詳細（SHIZUOKA せかい演劇祭 2026 内）

1. BIOTOPE－劇作家のためのキャンプ

初回のキャンプは SHIZUOKA せかい演劇祭の期間中に、共同でのリサーチやディスカッション、上演作品の鑑賞、招へいアーティストによるワークショップへの参加、交流イベント等を実施します。

実施期間	2026 年 4 月 25 日（土）～5 月 7 日（木）
実施国	日本（静岡）
訪問先	SHIZUOKA せかい演劇祭 2026（静岡）
参加者 ※ 名前アル ファベット順	Adriana Nordin Manan／アドリアーナ・ノルディン・マナン（マレーシア） Guelan Varela-Luarca／ゲラン・ヴァレラ・ルアルカ（フィリピン） Jaturachai Srichanwanpen／チャトゥラチャイ・シーチャンワンペン（タイ） Jean-Baptiste Phou／ジャン・バプティスト・プー（カンボジア） Kaori Nishio／西尾佳織（日本） Kyle Yamada／山田カイル（日本） Shohifur Ridho'i／ショヒフル・リドイ（インドネシア）
詳細	参加者プロフィール、スケジュール等は SPAC 公式 HP をご確認ください https://spac.or.jp/project/biotope

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：福島、熊倉）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp

2. ASEAN 地域のアーティストによるワークショップおよび招へい公演

ASEAN 地域のアーティスト 3 名による舞台芸術関係者向けのワークショップを開催します。本ワークショップでは、各アーティストが自身の創作手法や思考プロセスを紹介するだけでなく、参加者との対話や意見交換を通じて、双方向的に学び合う時間を設けています。異なるバックグラウンドをもつアーティストと参加者が交流することで、新たな視点や創作のヒントが生まれる場となることを目指します。また合わせて作品の上演も行い、創作への理解を深めます。

(1) アルフィアン・サアット

シンガポールの劇作家、アルフィアン・サアットは、歴史や政治、アイデンティティといった扱うことの難しいテーマを、鋭い知性と軽やかな笑いで包んで観客に届けることを得意とする今注目のアーティストです。テアター・エカマトラ創設 30 周年を記念して書き下ろされた『マライの虎—ハリマオ』においても、その豊かな言語感覚と批評的な視点が存分に発揮されています。アジアの劇作の旗手が、演劇ならではの躍動感と親しみやすい笑いのなかで参加者の思考を揺さぶります。



『マライの虎—ハリマオ』より

(2) アイサ・ホクソンとヴェヌリ・ペレラ

フィリピン出身のアイサ・ホクソンとスリランカ出身のヴェヌリ・ペレラは、ジェンダーや労働、ナショナリズムの暴力性に焦点をあてた作品で、国際的にも高い評価を得ているパフォーマンス・アーティストです。『マジック・メイド』では、多くのケア労働／家事労働者を海外に送り出す地域を出自とする 2 人が、そうした女性労働者たちの声を集め、「ほうき」を共通のモチーフに、魔女狩りに象徴される家父長的暴力と、現代の移民によるケア労働／家事労働の搾取の構造を重ね、女性の身体に刻まれた歴史と現在を掘り起こします。



『マジック・メイド』より

Photo: Bernie Ng, courtesy of
Esplanade – Theatres on the Bay,
Singapore

ワークショップ

日程	● 2026 年 4 月 27 日 (月) 10 時～13 時 アルフィアン・サアット (『マライの虎』) (演劇実践者向け) 15 時～18 時 アイサ・ホクソン/ヴェヌリ・ペレラ (『マジック・メイド』) (演劇実践者向け) ● 2026 年 4 月 29 日 (水・祝) 10 時～12 時 アイサ・ホクソン/ヴェヌリ・ペレラ (『マジック・メイド』) (一般向け)
場所	静岡県舞台芸術公園 稽古場「稽古場 1」(静岡市駿河区平沢 100-1)

上演『マライの虎—ハリマオ』

日程	2026 年 4 月 25 日 (土) 26 日 (日) 各日 13 時～14 時半
場所	静岡芸術劇場 (静岡市駿河区東静岡 2 丁目 3-1)

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部 (広報担当：福島、熊倉)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp

上演『マジック・メイド』

日程	2026 年 4月25日（土）26日（日）4月29日（水・祝） 各日 16 時～17 時 20 分
場所	静岡県舞台芸術公園 稽古場棟「BOX シアター」

詳細は SHIZUOKA せかい演劇祭 2026 公式 HP よりご確認ください。 <https://festival-shizuoka.jp/>

SPAC - 静岡県舞台芸術センター

公益財団法人静岡県舞台芸術センター(Shizuoka Performing Arts Center : SPAC)は、専用の劇場や稽古場を拠点に、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う県立の劇団・劇場です。1997 年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007 年より宮城聡が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。演劇の創造、上演、招聘活動以外にも、教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。

国際交流基金

国際交流基金（JF）は「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ。」をミッションに、「文化芸術交流」「日本語教育」「日本研究・国際対話」を推進する独立行政法人です。

本事業は、JF が推進する「次世代共創パートナーシップ－文化の WA2.0－」の一環として実施されます。

このプロジェクトは、2024 年から 10 年間にわたって ASEAN を中心とするアジア諸国と、日本語教育、文化芸術、日本研究、国際対話の分野で、互いの価値を認め合う、包括的な人的交流を展開しています。

日本語パートナーズ事業と双方向の知的・文化交流事業を軸に、心と心のふれあいを通じて、多層的な人的ネットワークの強化や、対象地域と日本との将来にわたる強い信頼関係の構築を目指します。

◆日本語パートナーズ事業

アジアの中学・高校などで日本語を教える教師やその生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや日本文化の紹介をする人を派遣しています。

◆双方向の知的・文化交流事業

相互理解の上に成り立つコラボレーションの機会を創出することで、人と人の強い絆を培い、世界の架け橋となる次世代人材を育てます。

次世代共創パートナーシップ－文化の WA2.0－公式サイト <https://asiawa.jpf.go.jp/> では、これまでの取り組みを記事や動画で掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：福島、熊倉）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp